

HEM-Net シンポジウム 「マスギャザリングとドクターヘリ」

我が国においては、2019年のラグビーワールドカップに続き、「東京2020大会」として東京オリンピック・パラリンピックが開催される。このように、「一定期間、限定された地域に於いて、同一目的で集合した多人数の集団」をマスギャザリングというが、こうした状況下においては幾つかの要因によって同時に多数の傷病者が発生することが諸外国の事例から指摘されている。したがって、こうした事態を想定した救急医療体制の構築は喫緊の課題であり、ドクターヘリの果たす役割は極めて大きい。

一方、我が国のドクターヘリは43道府県で53機が日常的に活動し、数多くの尊い命を救い、後遺症を軽減しているものの、東京都にはドクターヘリが未だ配備されていない。

そこで、「東京2020大会」を念頭に、発生が懸念されるマスギャザリングを起因とする多数傷病者について、ドクターヘリ等による迅速、かつ、広域的な搬送システムの整備を図ることを目的とし、併せてこのシステムを「東京2020大会」のレガシーとして残すことを期待し、シンポジウムを開催することとした。

日 時 : 2018年11月26日(月曜日) 13:30~17:30

会 場 : 全国町村議員会館 2階会議室 (千代田区一番町25番地)

シンポジウム次第

総合司会 HEM-Net 理事 益子 邦洋

1. 開会の挨拶 (13:30~13:40) HEM-Net 理事長 篠田 伸夫

2. 基調講演 (13:40~14:40)

基調講演

「オリンピックと危機管理～想像と準備～」

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

チーフ・セキュリティ・オフィサー(CSO)

米村 敏朗

(休憩: 14:40~14:50)

3. パネルディスカッション (14:50~17:20)

「「東京2020大会」における多数傷病者ヘリコプター広域搬送体制をどのように構築し、隣県と調和させるか」

コーディネーター

HEM-Net 理事 益子 邦洋

4. 閉会の挨拶 (17:20~17:30)

HEM-Net 副理事長 小濱 啓次

パネルディスカッション

「東京 2020 大会」における多数傷病者ヘリコプター広域搬送体制をどのように構築し、隣県と調和させるか

パネリスト(案)

- ・ 東京都災害医療コーディネーターの立場から
杏林大学医学部救急医学教室 主任教授 山口 芳裕 先生
- ・ 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに係る救急災害医療体制検討合同委員会委員長
の立場から
東京大学医学部救急科学教室 主任教授 森村 尚登 先生
- ・ 首都近隣のドクターヘリ基地病院の立場から
君津中央病院 救命救急センター長 北村 伸哉 先生
- ・ 厚生労働省医政局地域医療計画課災害時医師等派遣調整専門官の立場から
厚生労働省医政局地域医療計画課 伊藤 香葉 先生
- ・ 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会医療サービス部長の立場から
東京オリパラ競技大会組織委員会医療サービス部長 宮本 哲也 先生

コーディネーター

HEM-Net 理事 益子 邦洋